

新着図書から

▼阪急電車／有川浩／幻冬舎
▼親指の恋人／石田衣良／小学館
▼遺したい言葉／瀬戸内寂聴／日本放送出版協会
▼母べえ／野上照代／中央公論新社
▼冬恋／ナナセ／メディアワークス
▼やうやう／永作博美／リトルモア
▼いま伝えたい大切なこと／日野原重明／日本放送出版協会
▼絶対、許さねえってば／水戸事件のたたかいを支える会／現代書館
▼どーすんの？私／細川貂々／小学館
▼ダイヤモンド給料データブック／「週刊ダイヤモンド」編集部／ダイヤモンド社
▼さらばゆとり教育／寺脇研／光文社
▼木の家に住むことを勉強する本／「木の家」プロジェクト／泰文館
▼発達障害の子どもたち／杉山登志郎／講談社
▼過疎地で快適に暮らす。／鷲田小弥太／エムジー・コーポレーション
▼作りながらマスターする、ソーイングの基礎。／月居良子／文化出版局
▼栃木のおいしいラーメン2008／下野新聞社
▼ビートたけしのオールナイトニッポン傑作選！／オフィス北野／太田出版
▼A.R.Iのクッキーの提案／森岡梨／文化出版局
▼「不祥事」を止めるISO思考／有賀正彦／光文社
▼ビースト・クエスト1～6／アダム・ブレード／ゴマブックス
▼かいけつゾロリやせるぜ！ダイエット大さくせん／原ゆたか／ポプラ社
▼あさんにおみやげ／つちだよしはる／あかね書房

カレンダー 4・5月

日	月	火	水	木	金	土
		4/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	5/1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

火～金 10:00～18:00

土・日 10:00～17:00

●休館日

○おはなし会 11:00 から

郷土資料 お知らせとお願い

図書館では、地域の調査・研究に不可欠な郷土資料の収集・保存に継続的に取り組んでいます。昨年度収蔵した郷土資料の一部をお知らせします。どうぞご利用ください。

▼【昨年度所蔵した主な郷土資料】
▼小松原暁子著作集／金子未佳
▼ソゾロアルキ／高橋修子
▼対岸・自句自解集 座／対岸発行所
▼戦後の村政五十年パ

今後とも、旧町村時代のものを含め城里町に関する資料(町に関連する事物について記述のある資料)、その他茨城県や地域に関する資料で寄贈いただいたものがありましたら、資料の種類・分野・時代を問わず、ぜひご協力をお願いします。また、寄贈いただけない場合でも、地元に関連する資料や記述について、情報だけでもお寄せいただければ幸いです。

ご要望・問合せなども含めて、お気軽に図書館・郷土資料館までご連絡ください。

桂図書館・資料館 だより

☎ 029-289-4946

パソコン・携帯から蔵書検索・予約できます

PC <http://lib.town.shirosato.ibaraki.jp>

携帯 <http://mlib.town.shirosato.ibaraki.jp>

携帯用QRコード



1ト1／阿久津尚一▼凛として／仲田こう▼幕末水戸藩と民衆運動／高橋裕文▼常総内海の中世／千野原靖方▼河鍋曉斎／ジョサイア・コンドル▼横瀬夜雨と長塚節／横瀬隆雄▼筑波根物語／水上勉▼茨城県の筆子塚／川崎喜久男▼むら・ひとくらし写真が語る茨城の民俗▼茨城県高校道徳テキストとともに歩む▼茨城県自然博物館第4次総合調査報告書 ほか ※資料の寄贈や収集にご協力くださった方々に、心よりお礼申し上げます。

今後とも、旧町村時代のものを含め城里町に関する資料(町に関連する事物について記述のある資料)、その他茨城県や地域に関する資料で寄贈いただいたものがありましたら、資料の種類・分野・時代を問わず、ぜひご協力をお願いします。また、寄贈いただけない場合でも、地元に関連する資料や記述について、情報だけでもお寄せいただければ幸いです。

ご要望・問合せなども含めて、お気軽に図書館・郷土資料館までご連絡ください。

今日のおすすめ

山は人魂の還るところだ。恐怖の裏に安穩があり、冥福がある。山に囲われて生きた者は、みな誰も還るのだ。逝く者の無念と生きる者の苦しみ、山々を舞台に描く怖ろしくも哀しい物語。



あさのあつこ
新潮社

ぬばたま

次世代メディア「ユニット」によって、「躍」時代の寵児となった映像プロジェクト「ユニター」彼に持ちかけられた新ビジネスは、歴史を変えてしまおうような壮大なプロジェクトだった。だがそこには、恐るべき罠が待ち受けている……



服部真澄
角川書店

エクサバイト

父は再婚せず、私は結婚せず、ずっとふたりで暮らしてきた。父の心が壊れていく日々はあまりにもヘビーで、そして、僕も愛おしい。いつか誰もが、親を看取る時が来る。アルツハイマーの父親の介護の日々を綴る。



山口美江
ブックマン社

女ひとりて親を看取る

癌とわかった妻。私は言葉が出なかった。かわりに両腕をひるげ、その中へ飛びこんできた容子を抱きしめた。「大丈夫だ、大丈夫。おれがついてる」夫婦の絆を綴る、愛惜の回想記。「遺稿」の単行本化。



城山三郎
新潮社

そうか、もう君はいないのか

プロ野球でのべ30人以上のタイトルホルダーを育てあげ、50代で念発起として教員免許を取得。社会科教師として教壇に上がり、「甲子園」を目指した天才打撃コーチが、教え子たちの心の中に遺したものは……



門田隆将
講談社

甲子園への遺言

落ち込む、逆ギレする、逆恨みする……。そんな若者たちに親も上司も見て見ぬふり。「怖い人」がいなくなり、「いい人」ばかりの世の中で、人がついてくる叱り方とは？ 愛される謝り方とは？ 声を出すことの大切さを説く。



和田アキ子
PHP 研究所

おとなの叱り方